

開講科目名 / Course	発達心理学	
ターム・学期 / Term・Semester	2026年度 / Academic Year 2 学期 / Second	
開講区分 / semester offered	2 学期 / Second	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2,4	
主担当教員 / Main Instructor	吉村 匠平	
担当教員名 / Instructor	吉村 匠平	
必修・選択 / compulsory subject	選択	
講義形態 / Class Type	講義	
授業回数	8	
科目の目的と概要	<p>発達を、進化、環境、遺伝という視点から複合的に理解する枠組みに沿って、言語、運動、認知機能、アタッチメント行動などの発達の過程について学ぶことで、発達という概念を相対化する態度を養う。</p> <p>変化、発達、成長が最も顕著である乳幼児期の発達を中心に扱う。内容によっては、児童の発達も併せて扱う。</p>	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進化という視点から、種の発達プロセスを概観し、発達を進化の所産として説明する。</li> <li>2. 進化という視点から、人間の発達に関する事象を説明する。</li> <li>3. ヒトの発達プロセスを理解・説明するために必要な心理学の概念と知識について、簡潔に説明できる。</li> </ol>	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、6.探究心と創造力	
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>01. 乳児期の言語発達：言語発達に不可欠なのは？</li> <li>02. 乳児期の運動発達：随意運動の発達と原始反射</li> <li>03. ヒトの進化の所産としての「生理的な早産」、乳歯、大泉門、原始反射</li> <li>04. ヒトの育児戦略：アロマザリング</li> <li>05. 育てられるものに埋め込まれた生依存戦略：アタッチメント行動の発達</li> <li>06. しょうがいのシステム論的な理解：ICFモデル</li> <li>07. ディスレクシアのシステム論的な理解</li> <li>08. 自閉スペクトラム症のシステム論的な理解</li> </ol>	
その他の授業の工夫	座席は講義開始時にくじを引いて決定する。講義はペアワークを中心に展開し、時間外学習を促進する目的でweb上に掲示板を構築する。	
時間外学修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前課題（指定された動画を視聴し、講義開始時に理解度確認テストを実施）を課す（6h）。</li> <li>・事後課題（与えられた課題に100文字程度で答える、講義内容を踏まえた展開課題）を課す（12h）。</li> <li>・事後課題（掲示板システムへの投稿、授業内容への疑問、意見、学生相互のコメントなど）（4h）。</li> </ul>	
評価方法と評価割合	<p>期末の試験は実施しない。事前課題の小テスト（4点/回）、講義内容の要約課題（5点/回）、授業を受けてのコメント（3点/回）、授業での発表（1点/回）、web掲示板への投稿（1点/回）、時間外の掲示板への投稿（3点/回）の得点を8回分集計して評価する。評価の基準は初回講義時に説明資料を配布する。講義を欠席した場合、その回に課された全ての課題を提出することができない。単位認定方法について、初めにプリントを配布し説明するので、出席すること。再試験は実施しない。</p>	
テキスト	テキストは指定しない。必要に応じてハンドアウトを配布する。	
参考書	<p>進化心理学入門（新曜社）</p> <p>進化と人間行動（東京大学出版会）</p>	
履修する上で必要な要件	この講義は必修の授業ではありません。再試験実施の予定はないので注意してください。受講希望者が多い場合は、受講者数の制限を行う可能性があります。	
その他	学校で頻繁に観察される事象を用いて、課題を構成したり、例示を行う。	
教員の実務経験	有・無	有
	内容	吉村匠平：公認心理師、学校心理士
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	無
	内容	
実務経験をいかした教育内容	学校場面で観察される「不適応とされがちな」行動を、事例として紹介する。	